

薩摩焼の名窯・作家の紹介

世界を驚嘆させた名窯・作家たち

楠部千之助 [1859-1941年]

楠部家は代々伊勢神宮の祭器の製造をしていた名家です。千之助は他家からの養子で、日本画家「幸野棹嶺」の門人で画家として生きていくつもりだったが、1887年頃に楠部陶器貿易工場を設立し、輸出用の薩摩焼（京薩摩）の製造・販売を始めました。錦光山、安田に次いで京都栗田口で3番目に大きな窯元まで成長しました。息子の楠部彌弍(1897-1984年)は陶芸作家として活躍し文化勲章も授賞しています。

トーマス・ビ・ブロー [1853-1941年]

トーマス・ビ・ブロー（ Thomas Bates Blow【 正公武郎 】）は明治末期頃から大正期にかけて日本で商売をしていた英国の美術商です。スイスのアルフレット・バウアーという日本の美術コレクターに日本の漆器、陶磁器等を販売していたことで有名です。薩摩焼以外にも様々な産地の美術工芸品を扱い、輸出していたと考えられています。京都に自宅を構えていたとも言われています。

阪錦山 [生没年不詳]

詳細な資料がなく生没年月や活動地域については不明で現在も調査中だが、細密緻密で高品質な薩摩焼を製造していたと考えられています。同銘の祭図の鉢に描かれた旗に「神戸」と描かれているため神戸に工房を構えていた可能性もある。今後の解明が楽しみな逸品の1つでもあります。